

別寒辺牛

べかんべうし

2007年6月発行
NO.13

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより
水鳥観察館だより「べかんべうし」は、厚岸の自然環境、動植物などの旬の情報を提供しております

～カワセミ情報～

別寒辺牛川をカヌーで下ると、鮮やかに青い色をした生き物が目を楽しませてくれます。それが、**カワセミ**（ブッポウソウ目カワセミ科）です。雄雌ほぼ同色でとても美しい色をしています。特別珍しい鳥ではありませんが会うチャンスは場所が限られているので、見た事のない人が以外に多いかもしれません。カワセミは留鳥または漂鳥として本州以南に分布し、北海道では夏鳥。水面近くを低く一直線に飛び、水面の決まった枝に止まり、魚を見つけると一直線にダイビングして捕まえます。ホバリング（はばたきながら、ヘリコプターのように空中の一点にとどまること）をすることも多く河岸の土壁などに横穴を掘って営巣します。



別寒辺牛湿原で今！！ 見られる鳥たち

厚岸町には、約220種類の野鳥が生息しています。留鳥（一年中いる鳥）・漂鳥（国内で時期により移動する鳥）・渡り鳥（繁殖地と越冬地が大きく離れている鳥）など、季節事にしか出会えないもの、留鳥としていつでも見るの出来る野鳥たちをお伝えしています。

タンチョウ（国の特別天然記念物）は、別寒辺牛川水系全体で約40つがい繁殖していますが、水鳥観察館から確認できるのは2つがいのタンチョウ。2つがいとも、既に繁殖に失敗。

オジロワシ（国の天然記念物）は、4月の中旬に2羽のヒナがかえり現在子育て中。

道東の湿原のサギといえばアオサギ。しかし特に春秋の渡りの時期にはダイサギ・チュウサギなどまっ白なサギが数羽から十数羽見られますが・・・よくタンチョウと間違われます。

カモ類は、春の渡りがほぼ終わる5月中旬をすぎると、ぐっと少なくなってしまう。実は道東の湿原では、繁殖しているカモ類は少ないのです。

厚岸町では主に、マガモ、、カワアイサ、オシドリが基本で、たまに別のカモが繁殖していることがある程度なんです。

これらは湿原のヨシが水鳥の姿を徐々に隠してしまっていますが、スズメサイズの小鳥たちが元気いっぱい季節に入っていきます。

抱卵中のタンチョウ



タンチョウのヒナが・・・！！

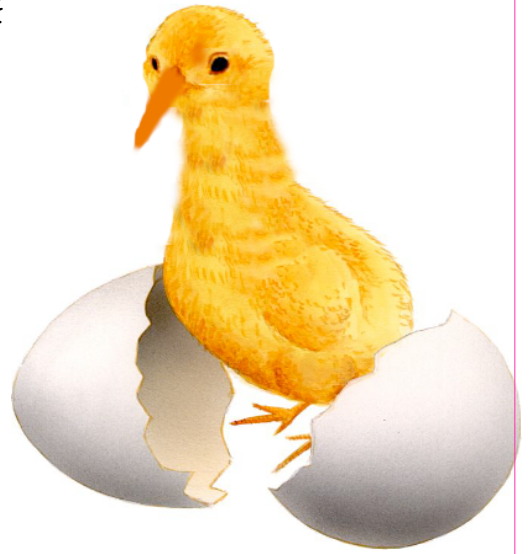
4月の中旬に別寒辺牛川湿原では2つがいのタンチョウが営巣活動を始めましたが、残念ながら上流付近に営巣していた一つがいは、ヒナの誕生を目の前に営巣活動を放棄してしまいました。原因ははっきり分かりませんがもしかすると、キツネにヒナをもって行かれた可能性もあります。

観察館前のもう1つのつがいは、4月16日に抱卵を開始し、卵は2個確認できていたのですが・・・5月22日に卵から一生懸命ヒナが出てくるところを確認。しかしその翌日の早朝にはヒナも卵の姿も見られませんでした。おそらく深夜にキツネに襲われたと予想されます。

ヒナは誕生してから最初の2週間の間が一番外敵（カラス・キツネ・ミンク・野犬）に狙われやすく、その時期を過ぎると、今度は2ヶ月目までが狙われやすい時期になります。

特にキツネが一番の外敵になり、今までも最近では館内に設置されているスクリーンからも、つがいでキツネを威嚇する行動が映しだされています。

残念ながらこれで観察館周辺のタンチョウにヒナがいなくなってしまうかもしれません。来年に期待・・・



♣アッケシソウが元気に♣

今年も水鳥観察館前の花壇にはアッケシソウ（アカザ科）の芽が出そろいました。昨年に比べ今年度は、暖冬の影響もあったのか2週間程発芽するのが早く状態も良くこれからの成長が楽しみです。



今は・・・



もうすぐ・・・

アッケシソウは、最初から赤色だと思っている人が案外多いようです。でも、アッケシソウも普通の植物。通常は鮮やかな黄緑色をしています。しかし・・・プヨプヨしています！



秋には・・・

アッケシソウは、かなりの肥料食いです。定期的に肥料を追肥しないと、すぐ生長を止めてしまいます。

自生地では、栄養分を含んだ厚岸湖の湖水が、潮の満ち引きで湖岸の自生地まで入ってきますので、自然に追肥されているため、条件が良い場所では生長がすごく良いです。

タンチョウのちょっとマジメなお話

現在、厚岸町内では約220種の鳥類が確認されています。その内、湿原や河川、厚岸湖を生活の場、場の一部としている種は半数の約100種を超え、広大な湿原と水域を有する厚岸町を特徴付けてます。

その湿原を生活の場としている鳥類の中で、最大のものが皆さんご存じのタンチョウなのです。

タンチョウは、湿原生態系の頂点の生き物です。タンチョウ自身は決して直接的に私たちに何か役に立つ行為をしている生き物ではありません。しかし、湿原に生息している様々な動物や植物、そして泥炭層など、この中には、水質や様々な魚類にとって重要な要素もたくさん含まれています。そのおかげで、湿原にはたくさんの生物（一部はタンチョウの餌）が生きていける訳なんです。逆に言うと、タンチョウがいない環境になるということは、湿原環境に何か悪影響があると考えることが出来ます。つまり、タンチョウやオジロワシ、ヒグマなどの大型生物は、その地域を代表する自然の象徴な訳です。なのでこれら生物を保全することは、周りの自然環境を保全することと同義なのです。そういう意味で、タンチョウは国の特別天然記念物になっているのです。けっして珍しいだけではないということをご理解下さいね。

<タンチョウ>（国の特別天然記念物）

さて厚岸湖に流れ込む河川は、一番大きな別寒辺牛川その他、トキタイ川、猫の沢、東梅川、イクラウシ川などがあり、それぞれの河口流域に発達する湿原に、タンチョウがそれぞれ1つがいつ、厚岸湖内だけでも3～4つがいが繁殖しています。

これら別寒辺牛川以外の河川は河川の規模が小さく、ほぼ河口域のみの生息地となっていますが、別寒辺牛川水系においては、河口から5km以内だけでも3～4つがいが繁殖しており、厚岸湖内の湿原も含めた別寒辺牛水系全体では、例年25から30つがいの繁殖が確認されていました。

しかし通常25から30つがい程度の繁殖数が、平成16年度以降は40つがいを超えるようになってきています（タンチョウ保護調査連合による航空調査）。大正時代、絶滅寸前だったタンチョウを給餌活動などにより救った経緯がありますが、その後、給餌活動による無制限なタンチョウ個体数の増加により、今や道東に生息するタンチョウは約1,100羽にもなります。

一時的な現象かどうかはまだわかりませんが、餌付け・給餌に伴う人慣れによると思われる農耕地のすぐ近くでの繁殖、食害、また通常ならば考えられないような川の支流の奥地などの繁殖不適地への営巣拡大が問題となっており、その影響が別寒辺牛湿原にも出てきているのではと推測できます。環境省も、タンチョウに対する給餌に制限について、具体的な方針を出したところです。

でも、別寒辺牛川下流域及び厚岸湖周辺湿原での増加は全く認められないため、中流、上流域の支流の支流など、非常に奥まった森林地帯を流れる小川に発達する湿地に入り込んで繁殖しているのが現状だと考えられます。この傾向がこのまま続くかどうかはわかりませんが、決して好ましい状況ではないので、今後の経過を見守りたいと考えています。



カヌー駅リニューアル



出発点カヌー駅

今までのカヌー駅は階段式で、水位変動により非常に昇降が難しくなることがあり、また敷石等が大きく、カヌーを傷つける上、歩行もしにくい状態でした。

そこで町内カヌー愛好者の意見を盛り込みながら、これらの点などを改良し、以前に比べ非常に昇降のしやすい施設に仕上がっておりますので、ぜひ皆様のご利用をお待ちしております。

その時には、水鳥観察館への届け出も忘れずに！

カヌーの発着が楽に！

平成7年の水鳥観察館のオープンと同時に開設したカヌー駅も、10年の時を経て老朽化が目立ってきました。

そこで今年の3月に3カ所のカヌー駅全てを改修し終え、全て木製の斜路方式に変更しました。

また出発点の木道も老朽化が激しく、今後のことも考えて山側にアクセス道も作り直しました。



終点カヌー駅

6月の野鳥観察会についてのお知らせ



❀ 夏鳥を観察しましょう～ ❀

愛冠の自然散策路を会場に、道東のちょっと変わった環境の野鳥を観察します。

日 時： 6月9日（土曜日）

時 間： 午前9時30分から11時30分まで

集合場所： ネイパル厚岸駐車場
(送迎が必要な方はご相談下さい)

❀天候不良の場合は中止となります❀



あつけし みずどり かんさつかん

厚岸水鳥観察館

☎088-1140

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ6番地

TEL (0153)52-5988 FAX (0153)53-2121

URL: <http://www.marimo.or.jp/AWOC/>

